

自分自身の身を守る!!

地震発生

まずは身の安全を確保する



・転倒する可能性のある家具等から離れ、姿勢を低くする。

グラツキたら「シェイクアウト」安全確保行動 1-2-3 で身を守る



1～5分 家族の安全を確認



・火の元の確認をする。出火していたら初期消火。



・揺れがおさまったら避難口を確保する。



・家族の安全を確認し、余震に注意する。

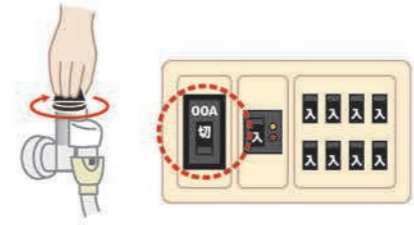
5～10分 近隣の安全の確認と正確な情報を得る



・テレビやラジオ、消防署、行政などから正しい情報を集める。



・倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



・ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落として出火防止。



・家屋倒壊のおそれがあれば、避難所などに避難する。家が安全であれば在宅避難。

数時間後～3日目 備蓄していた生活必需品で賄う



・各家庭で最低3日分（できれば1週間分程度）の生活必需品を用意。
・市の広報等の情報に注意する。

生活の維持・避難所での生活

・備蓄食料などでのしながら、必要に応じて避難所で避難者登録をし、食料などを調達する。
・避難所ではルールを守り、避難者も役割分担をして助け合いながら生活する。

4日目以降




南海トラフ巨大地震
気象庁が南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）を発表した時は、震源が離れた場所であっても、その地震に連動して関東・東海地方でも数時間～1週間後に大きな地震が起きる可能性があります。また、海老名市内では、津波の浸水想定区域はありませんが、海岸近くにいた場合は津波のおそれがあるのですぐに海岸から離れ、高台に避難しましょう。南海トラフ地震関連情報にも注意しましょう。



通電火災を防ぐには…
「感震ブレーカー」が効果的

感震ブレーカーは設定値以上の震度の地震発生時に、自動的に電気の供給を遮断するものであり、家庭に設置することで通電火災を防止し、被害を大きく軽減することができます。


なお、夜間に地震が発生した場合に照明が消えることで、屋外への迅速かつ安全な避難の妨げになることも考えられるため、非常灯も準備しましょう。



震度5弱以上で活用 居住者全員の無事が確認できたら…
「安否確認フラッグ」の掲出を!!

市では、地震災害時の安否確認を迅速に行うため、家族全員の無事が確認できた場合、玄関のドアのノブ等に「安否確認フラッグ」を掲げる取り組みを行っています。震度5弱以上の地震が発生したときは、この黄色い「安否確認フラッグ」を掲げることで、救助隊や近隣の人に「うちの家族は無事です」と知らせることができます。皆様のご協力をお願いします。

また、紛失してしまい手元のない方は、黄色のタオル等で代用し、掲出しましょう。



避難するときの服装

リュックサックなどを使用し両手がふさがらないようにする

頭部はヘルメットや防災ずきんで保護する

長袖、長ズボンを着用

軍手などの手袋を着用

底の厚い履き慣れた靴を履く

